

つながり、寄り添いによって

本人本位の生活を支える

障害のある方が地域で暮らす中で、本人の安心した生活のサポート(権利擁護)と、本人自身で作る生活について、障害のある方の相談支援事業所からは、どのような課題が見えているのでしょうか。

今号は、平成十九年から相談支援事業を海老名市より受託している(福屋谷会)の「相談支援センターほしや」相談員の谷岡裕子さんにお話を伺いました。

多様な問題を抱える本人、家族とどうつながるか

センターでは、相談の約六割が知的障害に関連することですが、近隣の「アガペセンター(身体障害)」、「びーな,s(精神障害)」の相談支援事業所と協力しながら障害の種別を越えた総合相談に取り組んでいます。谷岡さんは「知的障害の場合には、本人が困り感を抱いて相談に来られるというより、家族や周囲の困り感からの相

談が多い状況です。本人の生活に対する思いを大切にしながら、家族や周囲の方々の困り感を解消していくことができるよう、面接や自宅訪問しながら、生活上の課題整理や、サービス申請手続きの支援をしています」と話します。

一方で、多様な問題を抱え込みながらも、他者との関わりを拒む本人や家族も少なくないと谷岡さんは話します。「関わりに抵抗感を感じる方たちは、支援者が突然関わると混乱してしまうことがあります。訪問の際は、本人や家族とつながりのある人に同行してもらうなど、まずは顔なじみになることから始めます。さらに関係者と連携しながら『誰が』『どのよう』な形で『関わればより良い支援につながるか慎重に考えていきます』と、サービスにつながる前の関係づくりを大切にしています。

寄り添い続ける人が必要

本人と話す中で谷岡さんは、「意思表示が的確にできないことや、生活問題の整理ができていない、先の見通しが立てられないなど、さまざまな状況があります。ゆつくりと丁寧に関わる中で、次第に本人の思いが見えてくることがあります。ある方は、初期相談から一年経過して初めて自分のようにしたいことを表現できるようになりました。こちらが意図しない時に、前向きな変化が本人に表れることもあります」と、継続性を持つことで本人自身が変化し、生きる力が引き出されるエンパワメントのきっかけをつくるのが相談支援の役割と言います。

今後は、知的障害のある方の一人暮らしも増えていくことが予想される中で、本人の生活を支えるサービスが十分でない現状から、社会資源を住み慣れた地域で関係者と協力しながら仕組みを作ることに挑戦していきたいと谷岡さんは話してくださいました。

(企画調整・情報提供担当)

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 **岡本 誠一郎**

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
(045)461-0101 代表 FAX (045)441-1527

神奈川県福祉研究会

(税務・会計の専門家グループ)

理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)
同 桑江 郁男(☎045-402-4433)
同 辻村 祥造(☎045-311-5162)
同 西迫 一郎(☎046-221-1328)
同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)
代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のおてつだい

デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI みる印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1786 FAX045(780)1598
<http://www.kki.co.jp/>